

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3373600489		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム うえつき		
所在地	岡山県勝央町植月中2422-8		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyoVoCd=3373600489-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyoVoCd=3373600489-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年2月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの中では利用者の方々、働いている職員の笑い声が響いています。明るくアットホームな雰囲気の中で安心して生活して頂けていると思っています。又、職員の資質向上に外部、内部研修の機会を設け、積極的に参加できるように、支援できております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、県北の地、中国山地の雄大なロケーションの中、自然の恩恵を受けた場所に位置している。事業所と地域との交流は運営推進会議を通して広がっており、桜の花見など、老人会員と一緒に楽しむ計画を立てている。地域の園児や学童との交流もあり、発表会・運動会の見学に出掛けたり、さつま芋のプレゼントが届くなど、入居者にとっては楽しい一時となっている。経営者の入居者第一の考え方は、日々のコミュニケーションにおいて共感姿勢に反映されており、認知症ケアに繋がっている。入居者は思いを伝え、自分の気持ちに沿うケアを受け、穏やかに生活を送っている。管理者の「職員のさらなる資質向上を目指して、アピールできるものを見つけていくと共に、安心・安全を感じてもらえるホームになってほしい」との前向きな言葉に期待を寄せる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に入るところに掲示し、理念に沿った行動が出来るようにしています。	玄関、リビング、事務所に掲示して外来者や入居者、家族に方針を理解してもらい、職員は共有して実践に繋げている。ストレスのない笑顔のある場作りを心掛け、親しい関係を保てるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の手品、舞踊のボランティアの訪問や保育園、小学校から発表会、運動会の招待を受け応援に行っています。又、小学生の慰問があり、生徒が作ったサツマイモのプレゼントを頂きました。	入居者は地域と交流しながら活動的に生活を送っている。舞踊等のボランティアの訪問、保育園や小学校の発表会、運動会に招待され慰問にも応じている。地域のコミュニティでの文化祭に出展し、見学に出掛ける。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域のコミュニティで開催される文化祭に利用者様と職員とで、作成した作品を出品しています。又、当日は見学に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行政、地域の老人会、民生委員、入所者の家族を交えて、ホームのありのままを見て頂きながら、会議を開催しております。活動内容を報告し意見をいただいております。	運営推進会議は、行政・老人会・民生委員・家族が出席し開催している。状況報告、活動報告をし、地域において事業所の役割について聴き、行政から制度の伝達を受けている。行事予定を報告して意見を聴いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの実情を伝え、相談事項に実直に対応しております。又、地域密着型管理者会議を町主催で開催して下さっています。	運営推進会議に行政の出席を得て、事業所の各種報告をし、行政からは制度改正などの伝達を受けている。他職種連携研修会や認知症介護実践研修に参加して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、センサーを設置しております。言葉による身体拘束もある事を認識できています。	身体拘束に関する具体的な行為についてミーティングで事例を挙げて検討し、拘束をしないケアの実践に繋げている。入居者の対応は共感・傾聴姿勢に努め、安心して生活出来る様支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、研修した内容をホームに持ち帰り発表。定期的に身体拘束の研修を開催しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しホーム利用者の制度利用に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が必ず行い、理念に沿ったケア方針を明記した文章のもと十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、お手紙にて、近況をお伝えし、ホームへの要望や意見を頂いております。玄関には、ご意見箱、アンケートボックスを設置しています。	入居契約時、重要事項を家族に説明し意見を聴いている。意見箱やアンケートボックスを設置し、運営推進会議や面会時に意見を聴く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは月1回開催し、業務の工夫等、職員からの意見を頂く事があります。代表者と管理者は常に連絡を取り、意見を伝えています。	職員のコミュニケーションが円滑に取れる様受け入れ態勢を示し、改善策や提案を考慮している。職員の資質向上を図り研修・勉強会を設け、認知症対応に反映させている。業務上の工夫点はミーティングで話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者より随時職員の勤務状況の報告を受け、家庭と仕事の両立が出来るよう要望を聞いている。定年は設定せず意欲向上のある人材は大切に思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症を理解し質の向上が図れるよう、研修には積極的に参加できるように支援しています。又、研修案内も掲示し職員が選択できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催で管理者会議が開催されています。情報交換の場としても活用できています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	細やかなコミュニケーションを構築し、話しやすい環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご利用者様の訴えに共感し、訴えをゆっくりとお聞きしています。不安な気持ちがあっても和らぐ事が出来るように、話し方等も工夫できるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接において、ご家族、本人からプライバシーを尊重した聞き取りを行い、利用者様に最善の保険サービスが利用できるような、サービスの種類等をお伝えしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持っている能力を発揮して頂き、縫物、洗濯たたみ、テーブル拭き、床掃除、野菜の下処理、畑仕事に協力して頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を細目に連絡しています。家族関係が希薄にならない様に、一時帰宅、外泊の支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内は同郷の馴染みが深く、利用者同士がよく関わっています。家族、知人、友人の面会がいつでも、尋ねて来やすい雰囲気作りに努めています。	家族や知人の面会時に快く出迎え、和やかに話し合える様配慮している。一時帰宅や外泊を勧めたり、暑中見舞いや年賀状を出す援助をしたり、関係継続の支援に努めている。神社の参拝も続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、職員間で情報を共有し皆が楽しく過ごせるような環境作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた利用者が混乱されることが無い様う、ご家族の了承を頂いたうえで、必要な情報提供を行っています。利用者本位の支援を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から聞かれる思いを聞き逃さない様にして、その人らしい、生活が送れるように支援しています。又、思いを言葉で伝える事が困難な利用者の表情等から汲み取ったり、関わり方の工夫を行っています。	日常のコミュニケーションに注意を払い、思いや意向を汲み取る様努めている。家族の意向、本人の生活歴、日常の過ごし方等を勘案して意向に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを尊重しながら、生活歴を情報収集し、生活環境がこれまでの暮らしに近づけるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズム、日常の過ごし方、その時の気持ちのありように配慮し、本人の思いに沿った暮らしの提供に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に意見、意向を求めています。月に1度のミーティングで利用者一人一人の状況報告、確認作業を行い実情に沿った介護計画になるように努めています。	月1回、ミーティングにて入居者の状態を話し合い、計画の進捗状況を確認してモニタリングをしている。状態の変化時、更新時に計画の見直しをしている。申し送りノートを活用して情報の共有をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方は時系列に記入し、様子が分かりやすい書き方になっています。情報共有が出来るよう、職員間では申し送りノートを活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によって、病院受診等必要な支援は柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しみの一つとして、町内のパン屋さんのパンの移動販売を利用、食べたいパンを選び購入しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診して頂き、健康チェックを受けています。緊急時は迅速な対応、アドバイスもいただいております。必要に応じ受診にも付き添っています。検査結果、病状を定期的に家族にれんらくしています。	毎週又は、隔週かかりつけ医の往診があり健康チェックを受けている。必要時、歯科の往診の支援をしている。週1回、看護師の訪問を受け、介護士と協働して異常の早期発見に努め、健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受けています。それ以外にも月3回ホームで対応困難な事には訪問して頂きます。ストマー装着利用のパウチ洗浄の注意点等のアドバイスも頂きました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の様子や入院に至るまでの経緯を情報提供し、安心して治療に専念して頂いています。ホームでは対応不可能な状況を率直にご家族にも伝え理解して頂いております。難しい状況時は主治医に相談し意見も頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応はホーム単独では困難なため地域でのネットワークが肝心であり、体制を整えています。家族の要望とホームでの力量を推し量り、適切な話し合いを設けていきます。	終末期対応は地域のネットワークに基づき、体制を整えている。家族の希望があれば終末期の対応が可能であり、看取りをしている。地域関係者と終末期について事業所で出来る対応を説明して理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアルにのっとり研修実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団、近隣住人へ救援要請の体制づくりをしています。又、年2回の消防訓練を通し入所者の避難方法について話し合い、訓練が来ています。救命救急の講習を職員全員が受けています。	年2回、避難訓練を消防計画に基づき隣接する事業所合同で実施している。地域との協力体制を築き、地元消防団、近隣住人の救援要請は可能となっている。地域特有の広戸風に対する対策も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利、身体拘束についてミーティングで話し合ったり、研修の機会を設けています。排泄ケア時は羞恥心に配慮して行っています。	会話はいつも共感するよう努め、相手の気持ちに沿って受け答えをしている。プライバシーへの配慮を示して意向の聴き取りをしている。羞恥心を考慮して排泄の介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話がしやすい雰囲気作りから聞かれる言葉を聞き漏らさないようにし自己決定できるようにしています。自己決定でも、利用者本位を推し測りケアを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人一人の生活パターンやペースを把握し職員が合わせる、さりげないケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんが着たいと思う服を選んでいただき、季節に合った服装ができオシャレが楽しめるような声掛けを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物と一緒に出掛け、選んでいたいたり、メニューの希望も聞き取り入れています。又、誕生日には希望者は希望の夕食に出掛けています。	畑で野菜作りをし下処理を一緒に行い、季節を感じながら美味しく食べられる様支援している。献立の希望を聞き、メニューに反映させている。芋やさんまを室外にて炭火で焼き、回想に繋がる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥の危険性が高い利用者には、ゼリー食、超刻み、粥、水分にはトロミ使用、状態に合った形で安心して食事が楽しめるように工夫しています。粥は水分を含むため、器は丼で提供しカロリーが保てるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施しています。できることはして頂きながら、磨き残しがないようにケア出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を目標としています。パット検討し装着パット使用で自立での排泄を効果的にしています。	日中はトイレでの排泄を試み、夜間は安全を考慮し、ポータブルトイレを使用している。トイレの位置を解りやすく表示して自立を促している。朝に牛乳を飲んだり、おやつにヨーグルトの摂取をして体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が2日見られないと、朝一に牛乳を飲んで頂いています。自家製のヨーグルトも毎日食べて頂き、腸に働きかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間が楽しみのひとつとして位置づけられています。入浴剤、ゆず湯、にして、リラックスできるように配慮しています。	入浴は基本週2～3日のペースで行われる。意向を確認して入浴の誘導をしている。現在は全員快く応じてくれる。入浴剤を使用したり、冬至に柚子湯をしたりして、入浴を楽しむ支援が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家庭的な雰囲気の中、テレビ鑑賞等しながら、自然な入眠体制を整えています。睡眠障害のある方は、眠くなるまで職員と過ごしたり、タオルでホットマスクをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の介護記録には、調剤薬局から頂いた薬の情報を閉じています。職員がいつでも、飲んでいる薬、注意事項、効能が分かるようになっていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物が好きな方には、刺し子、絵が好きな方には塗り絵、水彩画等の余暇活動の提供が出来ています。楽しみごとは、家族参加で敬老会をしボランティアの舞踊を見ながら家族と一緒に松花弁当を食べられました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には希望を聞き、好きな物を食べるに外出しています。又、家族参加の花見も計画しましたが風邪症状の方が出て、今回は断念しました。その時は地域の老人会の方が協力して下さるようになっていました。	近隣のコミュニティーにて、桜やつつじの花見を運営推進会員の老人会の方や家族と共に楽しむ計画があったが入居者の体調不良で見送りとなった。外気浴、気分転換を兼ねて畑に出たり、近隣へ散歩に行ったりする様支援している。	気候が良くなれば気分転換・外気浴を兼ねて近隣を散歩し、地域資源を活用して外出の機会を捉える事に期待を寄せる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて自分でお金を持ち希望があれば買い物のために外出し、自分で支払いをされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状を家族、知人に書かれました。遠く離れたご家族に電話で元気の便りを届けています。ご家族、本人とても喜んでくださいました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節が感じられる飾りや、装飾で明るいホームの雰囲気を作られています。創作で作った干支のサルの置物が玄関で来客者を温かく迎えています。	玄関先に鉢植えの花や玄関に季節の花を掛け、居心地良く過ごせる様支援している。リビングにはひな飾りを配置して季節感を味わうと共に、回想を伴う支援をしている。日中は懐かしの歌や作品作り、アクティビティをして和気あいあいと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで楽しく過ごして頂きたく、気の合う方と話が弾むように、ホールでの席の配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた、タンス、椅子等、見慣れた空間を作ることで安心して暮らしていたできるようにしています。	居室入口に表札を掲示して他室と区別している。担当制となっていて、清掃を手伝い、居室が整頓されて気持ちよく過ごせる様支援している。時計、自分の作品(書)、ソファを配置して自分の部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室全体の様子がホールから、分かりやすい作りになっています。夜間等は布団に付けている鈴の音で職員が様子観察に伺えています。シルバーカー等を使用しホール、居室を自由に行き来しています。		